

ciency of the pollinator system. *Evolution* 26: 242-250. Takhtajan, A. 1969. Flowering plants. Origin and dispersal. Translated by C. Jeffrey. Oliver & Boyd, Edinburgh.

* * * *

広義のタデ属 *Polygonum* L. s. lat. の中でチシマミチヤナギ属 *Koenigia* は花粉形態が特異であり、独立属と考えられ、5種を含む。このうち *Koenigia delicatula* (Meisn.) Hara は異形花柱花をつけることが明らかとなった。長い花柱をもつものを subsp. *relicta* O. Hedb. とする。ところが、この新亜種の花粉形態はチシマミチヤナギ属と異なり、イヌタデ属 *Persicaria* と一致する (Fig. 2)。この亜種はこれら両属の分布するヒマラヤ東部に分布する。

○若き日の原 寛博士の日記 (2)

9月27日 今日より菌類採集を決心す。

10月5日 今日より学習院内植物調査を決意す。(注：後、1931年に博士の最初の論文、学習院構内植物目録、学習院時報第17号附録として発表された。)

10月15日 5時夕食をすまし、松平の家へ行き、共に川村清一先生の宅を訪ひ、10時過迄お話をきいた。僕の持参した高山植物 (コゴメグサ属) は未だ和名なく、新種かどうか調べていただくこととした。11時帰宅。(注：川村博士との最初の出会いと思われる。以後頻々と訪問し、教えを乞うている。)

10月25日 飯沼愔斎著増訂草木図説を買う。

11月9日 7時半起床。8時45分家を出て松平の家へ寄り、共に川村先生の邸へ行き、菌の鑑定を願ひ、昼食を頂戴し、午後4時半帰宅。

年末所感 此年の秋は僕の植物生活に一大変化を与へ、先づ植物学の大家川村清一氏と交って凡ての植物、草、木、隠花植物の凡てを知るの必要を感じ、以後あらゆる植物を採集することに努め、殊に菌類を採取せり。然して来年に於ては腊葉集の内容を充実せしめ、以て後日の参考とせんとす。

昭和2年 (1927) 植物採集旅行表

4月29日 逗子、神武寺方面。30日逗子、七曲方面。

6月4日 軽井沢へ出発。5日愛宕山、雲場池方面。11日軽井沢へ出発。12日離山方面。
13日矢ヶ崎山方面。14日碓氷、一ノ字山方面。

7月15日 軽井沢へ出発。18日小瀬方面。20日押出岩。23日信州大町～葛温泉。24日葛～東沢発電所。25日東沢～烏帽子小屋。26日烏帽子～蓮華小屋。27蓮華～檜、殺生小屋。28日檜～上高地。29日上高地～島々～軽井沢。(続く)